

〈解答〉

- ① 1 イ
2 ウ
3 線路を走っていく列車の音
4 ② オ ④ エ
5 〔例〕相手よりも先に海を見るため。(14字)

配点 1、2は各1点、他は各2点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 「ながら」は接続助詞、つまり付属語であるため、文節に分けてはならない。また、「見回している」の部分は、五段動詞「見回す」の連用形＋接続助詞「て」＋上二段活用動詞「いる」の終止形、という構成である。
- 2 ア「身分」は「訓読み＋音読み」（「身」の音読みは「シン）、イ「選別」は「音読み＋音読み」、ウ「目印」は「訓読み＋訓読み」（「目」の音読みは「モク）、「印」の音読みは「イン）、エ「本音」は「音読み＋訓読み」（「本」の訓読みは「もと）、「音」の音読みは「オン」「イン」の熟語である。
- 3 傍線①と同じ内容を表現したものとして、「カタンカタンという単調な響き」（傍線①の3行後）がある。その直後に、「（その響きは、）線路を走っていく列車の音である」とあるのに注目する。
- 4 ②の直前に、「線路も近いんだ！」という草太の会話文があるが、草太は、昇平に指摘され、これまでとは違う「香り」「音」から、自分たちの旅の目的地である、海が近いことを感じ取り、そのうれしさから、「思わず」言葉が出たのである。また、④では、その前後を読むと、この先にのぼり坂があるのを見た草太が、軽いギアのほうが有利と考え、重くしかけていた自転車のギアを、意識的に軽いままにした様子が読み取れる。エ「あえて」は、意図的に何かを行うさまを表す副詞である。
- 5 傍線③の13～14行後に、「昇平より先に海を見る——そんな決意を胸に」とあるのに注目する。草太も昇平も同じ思いであったため、二人で「先を争うように走り出した」のである。